

豊島 終事件は 終わらない



これまでの10年、これから10年

香川県の計画通りに進めば、豊島の産廃処理事業はあと3年で終了。地下水汚染の問題は残るものの、廃棄物が完全に撤去される日は確実に近づいています。産廃処理の進捗について議論が進められると同時に、昨年からは産廃跡地を今後どうやって利用していくかについても議論がはじまっています。海岸部から丘陵部まで約27万平方メートルにも及ぶ広大な土地は、廃棄物や直下土壌が撤去され、地下水の浄化も完了すれば、豊島住民の元にかえってきます。これまでの10年間、豊島住民は廃棄物を撤去・無害化し、豊島の自然を元に戻すことに力を注いできました。これからは、この土地をいかに有効に活用し、島外へ発信していくか、という点に目を向ける時期にさしかかっています。

ムが開かれ、「公園にする」「砂浜に戻す」などの島としての拠点を作るなど、島内外の方々から様々な意見をいただきました。豊島事件は、住民運動によって行政が責任を全面的に認め、原状回復することを約束した、世界でも類を見ない成果を成し遂げました。豊島にとって産廃現場は闘いのシンボル・聖地とも言える場所。島の自立・再生を可能にするために、今後どのような方向に進んだらよいのでしょうか。事件を過去のものとして忘れてしまつてはななく、後世に語り継ぎ、二度と同じ過ちを繰り返さないようにしていくために、豊島のこれからを決める大事なタビニングポイントがせまっています。

2009年におこなわれた第7回・豊島島の学校でも跡地利用に関するシンポジウム



調停成立以前から現地説明会には多くの方が訪れています 写真提供・小林恵

見直される処理方法のあり方

公害調停成立から10年。豊島に不法投棄された有害産業廃棄物の処理事業が新たな局面を迎えようとしています。2010年1月31日におこなわれた第22回豊島廃棄物処理協議会で、香川県が「水洗浄処理」という新しい処理方法を豊島住民に提案。今までおこなわれてきた「焼却・溶融処理」とは異なる新しい処理方法は、今後の処理計画にどのような影響を及ぼすのかに注目が集まっています。そこで、廃棄物対策豊島住民会議の科学技術顧問である中地重晴先生にお話を伺いました。

『2003年9月から始まった処理事業は2009年末時点で全体の53.4%しか終わっておらず、当初の計画より約4万トンの処理が遅れている状況です。県は2013年までに撤去を完了することを約束したうえで、国から約6割の支援金が受けられる産廃特措法の期限も2013年3月末。あと3年で残りの46.6%を処理するのは現実的ではないため、地中に埋まった廃棄物は計画通り焼却溶融処理、汚染された直下土壌を島外で水洗浄処理する新たな方法の導入を検討しています。水洗浄処理は最近になって、様々なケースで実用化が進められています。掘削した直下土壌を特殊なドラムに洗浄水とともに

に投入し、土の粒径ごとにわけ、汚染物を含む汚泥と浄化された砂礫(れき)とに分けます。かなりスピードアップできるうえに、水洗いのため焼却・溶融処理と違い、CO2を排出せず、コストも削減できるのが特徴です。昔からあった処理方法の応用ではあるのですが、技術の進化により有用性が認められはじめています。しかしそれでも撤去完了は期限ギリギリになる見通しです。』

住民会議では「県はスピード重視の処理をしていないか?」なぜ処理が遅れたのか原因と責任をはっきりさせるべき」と調停条項の変更なり追加が必要だなどの意見を表明。これに対し県は「調停条項上の整理が必要であると考えている」とのみ回答しています。県は水洗浄処理を2011年度から導入することをめざしており、予算編成のためにも今秋までに住民側の了解を得るため協議を進めていく方針を示しています。



中地 重晴
廃棄物対策豊島住民会議の科学技術顧問を務める。産廃処理問題のエキスパート。2010年4月より熊本学園大学社会学部社会学部教授に就任。

第8回 豊島島の学校 開催のお知らせ

豊島で起こった日本最大級の有害産業廃棄物不法投棄事件(豊島事件)の教訓を次の世代に伝えるために、法曹、学術、マスコミなどから一流の講師を迎え、年に一回、豊島でイベントを開催しています。事件現場の見学や学習会、パネルディスカッションなど、3日間にわたり、豊島事件について様々な視点から考えることができるプログラムです。その他、地引き網漁体験や盆踊り、バーベキューなど、豊島の豊かな自然や文化に触れることのできるお楽しみ企画もあります。この機会に豊島を訪れ、豊島住民とともに事件について考えてみませんか?

日程：2010年8月20日(金)~8月22日(日)
開校地：豊島(香川県小豆郡)
受講費：おとな(中学生以上) 20,000円
こども(小学生以下) 10,000円
(小~大学院の在学学生には瀬戸内オーリーブ基金より半額の助成があります)
8月22日(日)シンポジウムのみ参加 1,000円

詳細は豊島・島の学校実行委員会まで
shimanogakkou@gmail.com

